

文 化 服 装 学 院
平成 29 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

平成 30 年 7 月 11 日

1 教育理念、人材育成像

● 1-1 学校の教育理念

1-1-1 文化服装学院の教育理念、人材育成像

- ・ 人材育成像は概ねわかりやすく記載されているが、就職活動においても指摘されている「コミュニケーション能力」の向上については具体的な取り組みに加え、成果が求められる。
- ・ 業界の変容、グローバル化など外的要因の変化を常に観察することが肝要である。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 / 2-2 学校組織

- ・ 部門ごとの課題の取り組みは行われている。結果の見直しに注力し業務改善に努める意識の向上が必要である。
- ・ 定年延長に伴う制度改革については次年度以降も課題として取り組むべきである。
- ・ 受動喫煙ゼロの取り組みは、教育機関として率先して取り組む姿勢を示したい。喫煙所の環境、マナーなどを観察し 2018 年度以降も引き続き課題とすべきである。
- ・ 文化学園 100 周年に向けた計画について、調査、分析結果をもとに組織として具体的な戦略を立てる必要がある。

● 2-3 財務状況

- ・ 経費削減、とりわけ人件費の削減は喫緊の課題であるが、組織として定期採用、人材育成は重要であり、教員の質向上は教育機関として生命線となることから、計画的な取り組みが求められる。
- ・ 財務の収支均衡、経費削減のための具体的な取り組みを示すべきである。
- ・ 課題とされている入試広報体制の確立について、具体的な取り組み内容が不明瞭である。

● 2-4 法令等の遵守

2-4-1 法令遵守・ハラスメント対策の状況

2-4-2 諸規定の制定、学則、細則、内規等の整備

2-4-3 個人情報の保護

- ・ 法令等に関しては概ね遵守されている。
- ・ 学則、規定などの見直し、制定は委員会を通じて意見を抽出、検討するルートが確立されている。

- ・ ハラスメントに関しては、未然に防ぐための具体的な対策、起きた場合の対処など体制とルール作りが急がれる。
- ・ 教職員間のハラスメントについての取り組みも進めるべきである。

● 2-5 社会貢献等の取組

2-5-1 活動への支援状況

2-5-2 公開講座・教育訓練など

- ・ 学生の社会貢献活動については、その本質の啓蒙が必要であり、学校としての支援が求められる。
- ・ 公開講座、教育訓練に関しては時流に見合った講座の検討、展開がなされている。

3 教育環境

● 3-1 施設・設備

3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備、使用状況

3-1-2 機材・備品の管理状況

- ・ 限られた資源の中、出来得る取り組みはなされている。
- ・ 講義室、実習室の使用、備品の管理については効率の良い、全学的な管理運営が求められる。
- ・ 学習環境の改善は年度内に解決する迅速な対応が必要である。また、学生に負担をかけない中長期的な計画、運営を心掛けるべきである。

● 3-2 付属機関・施設

3-2-1 図書館

3-2-2 服飾博物館

3-2-3 ファッションリソースセンター

3-2-4 文化・服装形態機能研究所

3-2-5 国際ファッション産学推進機構

3-2-6 国際交流センター

3-2-7 IT 戦略室

3-2-8 健康管理センター医務室

3-2-9 文化事業局

3-2-10 学生食堂

3-2-11 文化北竜館

3-2-12 文化ファッションインキュベーション

3-2-13 学生寮

- 各部署とも概ね課題の抽出、取り組みが明確であり改善が認められる。
- 附属機関や施設を生かし、教員の質向上を目指した学内研究などを積極的に取り入れることを検討すべきである。
- IT を活用した学生サービスについては、その利便性において使用する現場と共に検証を行うべきである。

4 学修支援

● 4-1 キャリア支援

4-1-1 就職活動支援・就職状況

4-1-2 企業開拓・関係強化

4-1-3 キャリア教育

- 就職活動の開始時期が早まっていることに対し、新年度が始まってすぐ行われるイベントやカリキュラムバランスについての検討が必要である。
- 学生アンケートの内容を十分に分析し、課題の抽出と対策を講じることが肝要である。
- 「文化学園創立 100 周年に向けての計画」（資料 2）に示した以下の項目への取り組みを強化する。
 - ・学生の「就業意識の向上」「コミュニケーション能力の向上」
 - ・教職員の「就職指導知識の向上」
 - ・組織として「複雑化した社会情報の分析と学生への提供」「産学間の機会創出と人材育成」「留学生に対する就職指導」

● 4-2 資格取得支援

4-2-1 資格取得率・状況

- 資格取得に関する課題は「受験者数の減少」「合格率の低下」「資格取得の価値向上」であると考ええる。
- 資格検定を統括する協会、ファッション業界に対する資格取得の価値向上を求める。現代の学生気質から、メリットがあることを訴えるのは有効な対策である。
- 外部への働きかけに合わせ、学生のモチベーションを向上させる、教育効果上のメリットを増加する必要もある。

● 4-3 学生相談体制

- 学生相談室の役割は、今後一層重要になると考えられる。
- さまざまな障がいを持つ学生がいる中で、出来得る対応はなされている。

- 対応する学生が多様化する中、学生生活におけるさまざまな悩みを抱いている学生に対しても、従来通り支援の場であることが求められる。

● 4-4 経済支援・健康管理

4-4-1 奨学金

4-4-2 健康診断

- 経済的支援として、各種奨学金を利用できる準備が整っている。
- 奨学金返還の延滞については、組織として事前の指導を含めた継続した取り組みを行うべきである。
- 健康診断に関しては滞りなく適切に行われている。

● 4-5 卒業生・社会人への支援

4-5-1 すみれ会（卒業生の会）

4-5-2 再就職・起業支援

- 卒業生との連携は企業開拓や起業、再就職支援にもつながる重要な取り組みである。
- すみれ会の活動には活性化と活動による実質的な成果が求められる。

5 教育活動

● 5-1 学校のカリキュラム編成方針

5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成状況

- 教育課程編成委員会と企業が連携し実践的なカリキュラムとなるような見直しと検討、カリキュラム変更が毎年行われている。
- 就職受け入れ先企業の求める人材、要望を的確にとらえ、カリキュラムに反映させる姿勢とスピードが求められる。

● 5-2 課程のカリキュラム編成方針、授業研究

5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

- 各科の取り組み、点検、評価が適切になされている。
- 習熟度を考慮した学生対応は大きな課題として対策の成果が求められる。

5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況

- 企業と連携した計画的な授業が実行され、成果を上げている。
- 具体的な取り組みと結果が解りやすく明記されている。

5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

- ファッション流通界の多岐にわたる職種に対応すべく、専門性を高める工夫が見られる。

5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業内容

- 各科とも業界を意識した実践的なカリキュラムに改善するため努力している。
- 企業とのコラボレーション、インターンシップの活用など、即戦力として必要なカリキュラムが考えられている。

5-2-5-1) II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究

5-2-5-2) II 部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究

- 昼間部と異なる、夜間部学生の実環境、気質に即した対応の検討がなされている。
- (夜間部は曜日により科目が固定されていることから) 授業日の変更は、十分に協議し慎重に決定すべきである。

5-2-6 関連科目の授業研究

- 各教科で学生の現状や、課程の特色に合わせた取り組みがなされており、評価できる。
- 学生への教育効果を意識し、理解を深めるための工夫がされている。

● 5-3 学外授業

5-3-1 学外授業の状況

5-3-2 インターンシップの状況

5-3-3 海外研修の状況

5-3-4 コラボレーションの状況

5-3-5 コンテスト活動の状況

- インターンシップ、コラボレーションは企業との連携が必要であるが、教育現場と企業間の目的、内容の認識にずれが生じている部分も感じられるため、目的の再確認を行うことも重要である。
- インターンシップによる研修人数が前年を下回ったことの検証をすべきである。
- 研修参加の希望者を増やすための具体的な取り組みが求められる。

● 5-4 学校行事

5-4-1 行事の状況

- 文化祭などの学校行事を授業の一環としてとらえ、カリキュラムに組み入れることや、学習効果を検証して評価対象とすることを検討してもよい。
- 学内コンテストについての課題を明確にし、具体的な改善に取り組む必要がある。

● 5-5 課外活動

5-5-1 学友会

- 学生意識の変化によって、求める活動の内容にも変化が見られる。活動の在り方については学生と協議をしながら進めていく必要がある。

● 5-6 教育・成績評価

- 懸案となっていた評価ランクに対する評価基準の整備ができたことは評価できる。
- IT 利用による学生への Web サービスについて進展がない。

● 5-7 退学者への対策

- 学業不振を理由とした退学者が半減するなど、対策に一定の効果は見られるが、全体として大幅な減少にはつながっていないため、継続的な取り組みが必要である。
- 留学生の退学者動向調査において関連機関から不備を指摘された問題は、早急に対応し改善しなければならない。

● 5-8 学生募集

5-8-1 学生募集の状況

5-8-2 広報活動

- さまざまな新たな取り組みの結果、新入生の増加につながったことが評価できる。
- 学生募集について「入学者調査アンケート」の調査、分析結果と既存のデータを活用し実効性のある取り組みをすべきである。
- 公開授業については授業、施設など見てもらいたい内容を明確にし、わかりやすい説明を心掛け戦略的に行うとよい。

● 5-9 国際交流

5-9-1 留学生の受け入れ状況

5-9-2 合作校・連携校の状況

5-9-3 外部団体・機関との連携

- 連携校や留学生の動向を注視し将来を想定することが必要である。
- グローバル企業、世界の状況などを把握し留学生だけでなく日本人学生にもメリットがある環境を作れるよう努めるべきである。
- 合作校との連携では常に課題について迅速に対応していくことが肝心である。

文化服装学院 平成 29 年度
自己点検・評価 内部評価委員による報告書

自己点検・評価委員会 内部評価会議

開催概要

平成 30 年 7 月 11 日（水）15：00～17：00
文化服装学院 B 館 4 階 B044 会議室

出席者（敬称略・順不同）

内部評価委員

相原 幸子、野中 慶子
門井 緑、西平 孝子、増田 大助、宮原 勝一、山田 とし子
須藤 久栄、渡井 邦重、吉野 真文

自己点検・評価委員

野沢 彰、此村 公子、山口 容子、
森 裕子、相澤 雅美、
阿川 周子、池端 みゆき、朝生 麻沙美、井戸川 倫也
石井 律子、薫森 三義
飯塚 有葉、三枝 みさお
福田 文子、宇都宮 愛

オブザーバー

村田 達也、池田 衛、小林 克也、浜田 法子、井守 あさみ、古澤 直子

以上